

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ大会 開催のレガシーについて

国民スポーツ大会、全国障害者スポーツ大会の開催は、本市にとって全国規模の大会を主体的に運営する貴重な経験となり、市民、企業・団体、市職員が一体となって大会を成功に導いたことは、大きな成果であった。

大会を通じて培われた人と人とのつながり、地域全体で取り組んだ姿勢は、一過性のものとして終わらせるのではなく、今後の市政運営やまちづくりに生かすべき重要なレガシーであると考えている。

今後の生かし方（以下の2点）

【市民、企業・団体との関係性の継承・発展】

目的：交流人口の増加、経済波及効果、健康増進

内容：大会を契機に構築された企業・団体、市民とのつながりを生かし、地域イベントやスポーツ大会などへ参加（ボランティア、協賛・寄附等）いただける機会を広げ、観光、地域産業と連携した取り組みを推進し、地域のにぎわいをつくる。

具体1：交流人口の増加、経済波及効果

市外から来場者を見込める大規模イベントには、キッチンカーや特産品などの物販を行う。

具体2：健康増進

工業会、商工会などの会員にイベント情報を広報する。

「する」………… イベント参加、スポーツ推進員等派遣（福利厚生）

「見る」………… SASAYURI 女子サッカー、東レアローズ滋賀、JD リーグ
女子ソフトボール、レイラック滋賀FC

「支える」…… ボランティア参加、企業協賛・寄附金

【市職員の経験、ノウハウの継承】

目的：部局のみで実施している事業・イベント等に各部局から出役することで、職員の一体感をつくりチームワークを高める。

内容：部局横断的な連携体制を今後の施策や大規模事業にも生かし、市が推進する重要事業に参加・体験することで、職員としての新たな発見につなげる。